

15:24 それから、彼らはイエスを十字架につけた。そして、くじを引いて、だれが何を取るかを決め、イエスの衣を分けた。

15:25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。

15:26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。

15:27 彼らは、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右に、一人は左に、十字架につけた。

15:28 【本節欠如】

15:29 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おい、神殿を壊して三日で建てる人よ。」

15:30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」

15:31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを嘲って言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」

15:32 キリスト、イスラエルの王に、今、十字架から降りてもらおう。それを見たら信じよう。」また、一緒に十字架につけられた者たちもイエスをののしった。

「十字架につけた」と簡潔に記述していますが、そこには生きた人間を鉄の釘ではり付けにするという、残虐な行為によるあらゆる出来事が含まれています。激痛による叫びがあり、苦しみによって体がよじれ、恐ろしいほどの血が流れました。「イエスの着物」とあるのは、母が息子の成人のときに織り上げて与えるものです。それはユダヤの習慣で、息子は母の愛情を感じながらそれを一生大切にします。その母の愛を踏みこむようにしてローマ兵はくじを引いたのです。イエス様は強盗と同じ扱いを受けましたが、そう



されることをあえて受け入れられました。強盗のように罪のある私たちであり、イエス様は同じ立場に立ってくださり、同じ思いになってくださり、慰め励まし、守りつつ解決へと導いてくださいます。主イエスがおられることで安心しましよ。

それはまさに十字架のできごとです。つまり、悩む私たちの罪を負ってくださったのです。私たちは単に苦しみへの解決に関心を向けるのではなく、自分の罪にも関心を向けるべきです。罪の赦しと、きよめこそがイエス様を辱めましたが、イエス様はそれさえもあえてお受けになりました。もはやイエス様には人類の罪を贖うことだけが、その思いにあつたのです。主の大きなみこころを成し遂げようとするときは、このように自分の利害やプライドなどは小さなことになりません。それほどの気持ちで主のために働きたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

